

指導検査基準（指定障害児相談支援）

○根拠法令

「児福法」＝児童福祉法（昭和22年12月12日法律第164号）

「児福法施行規則」＝児童福祉法施行規則（昭和23年3月31日厚生省令第11号）

「厚労令29」＝児童福祉法に基づく指定障害児相談支援の事業の人員及び運営に関する基準（平成24年3月13日厚生労働省令第29号）

「平24厚労告126」＝児童福祉法に基づく指定障害児相談支援に要する費用の額の算定に関する基準（平成24年3月14日厚生労働省告示第126号）

「平24厚労告128」＝厚生労働大臣が定める一単位の単価（平成24年3月14日厚生労働省告示第128号）

「平27厚労告181」＝児童福祉法に基づく指定障害児相談支援に要する費用の額の算定に関する基準に基づき厚生労働大臣が定める基準（平成27年3月27日厚生労働省告示第181号）

「障発0330第23通知」＝児童福祉法に基づく指定障害児相談支援の事業の人員及び運営に関する基準について（平成24年3月30日障発0330第23号）

「障発0330第16通知」＝児童福祉法に基づく指定通所支援及び基準該当通所支援に要する費用の額の算定に関する基準等の制定に伴う実施上の留意事項について（平成24年3月30日障発第0330第16号）

「昭島市規則」＝昭島市指定特定相談支援事業者及び指定障害児相談支援事業者の指定等に関する規則（平成24年3月30日規則第15号）

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	備考
第1 基本方針	（1）指定障害児相談支援の事業は、障害児又は障害児の保護者（以下「障害児等」という。）の意思及び人格を尊重し、常に当該障害児等の立場に立って行われているか。	児福法第24条の30 厚労令29第2条第1項	
	（2）指定障害児相談支援の事業は、障害児が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように配慮して行われているか。	厚労令29第2条第2項	
	（3）指定障害児相談支援の事業は、障害児の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、障害児等の選択に基づき、適切な保健、医療、福祉、教育等のサービス（以下「福祉サービス等」という。）が、多様な事業者から、総合的かつ効率的に提供されるよう配慮して行われているか。	厚労令29第2条第3項	
	（4）指定障害児相談支援の事業は、当該障害児等に提供される福祉サービス等が特定の種類又は特定の障害児通所支援事業を行う者に不当に偏ることのないよう、公正中立に行われているか。	厚労令29第2条第4項	
	（5）指定障害児相談支援事業者は、区市町村、障害児通所支援事業を行う者等との連携を図り、地域において必要な社会資源の改善及び開発に努めているか。	厚労令29第2条第5項	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
	<p>(6) 指定障害児相談支援事業者は、自らその提供する指定障害児相談支援の評価を行い、常にその改善を図っているか。</p> <p>(7) 指定障害児相談支援事業者は、障害児の人権の擁護、虐待の防止等のため、必要な体制の整備を行うとともに、その従業者に対し、研修を実施する等の措置を講じているか。</p> <p>(8) 指定障害児相談支援事業者は、指定障害児相談支援の提供の終了に際しては、利用者又はその家族に対して適切な援助を行うとともに、福祉サービス等を提供する者との密接な連携に努めているか。</p>	<p>厚労令29第2条第6項</p> <p>厚労令29第2条第7項</p> <p>厚労令29第2条第8項</p>	
<p>第2 人員に関する基準</p> <p>1 従業者</p> <p>2 管理者</p> <p>3 従たる事業所を設置する場合における特例</p>	<p>指定障害児相談支援事業者は、指定障害児相談支援事業所ごとに専ら指定障害児相談支援の職務に従事する相談支援専門員を、必ず1人以上置いているか。</p> <p>ただし、指定障害児相談支援の業務に支障がない場合は、当該指定障害児相談支援事業所の他の職務に従事させ、又は他の事業所、施設等の職務に従事することは差し支えない。</p> <p>相談支援専門員の配置は、障害児相談支援対象保護者の数が35又はその端数を増すごとに1人を標準とする。なお、利用者の数は前6月の平均値とする。（ただし、新規に指定を受ける場合は、推定数とする。）</p> <p>指定障害児相談支援事業者は、指定障害児相談支援事業所ごとに専らその職務に従事する管理者を置いているか。</p> <p>ただし、指定障害児相談支援事業所の管理上支障がない場合は、当該事業所の他の職務に従事させ、又は他の事業所、施設等の職務に従事することは差し支えない。</p> <p>(1) 指定障害児相談支援事業者は、従たる事業所を設置する場合、主たる事業所と一体的に管理運営を行っているか。</p> <p>(2) 従たる事業所を設置する場合においては、主たる事業所及び従たる事業所の従業者のうち、それぞれ1人以上を、専ら当該主たる事業所又は従たる事業所の職務に従事する相談支援専門員として配置しているか。</p>	<p>児福法第24条の31第1項</p> <p>厚労令29第3条 障発0330第23通知 第二の1（1）</p> <p>厚労令29第4条 障発0330第23通知 第二の1（2）</p> <p>厚労令29第4条の2第1項 障発0330第23通知 第二の1（3）</p> <p>厚労令29第4条の2第2項 障発0330第23通知 第二の1（3）①</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
<p>第3 運営に関する基準</p> <p>1 内容及び手続の説明及び同意</p> <p>2 契約内容の報告等</p>	<p>(1) 指定障害児相談支援事業者は、障害児相談支援対象保護者が指定障害児相談支援の利用の申込みを行ったときは、当該利用の申込みを行った障害児相談支援対象保護者（以下「利用申込者」という。）に係る障害児の障害の特性に応じた適切な配慮をしつつ、当該利用申込者に対し、運営規程の概要その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を記した文書を交付して説明を行い、当該指定障害児相談支援の提供の開始について当該利用申込者の同意を得ているか。</p> <p>(2) 指定障害児相談支援事業者は、利用申込者との間で当該指定障害児相談支援の提供に係る契約が成立したときは、利用申込者に係る障害児の障害の特性に応じた適切な配慮をもって、社会福祉法（昭和26年法律第45号）第77条第1項の規定に基づき、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 当該事業の経営者の名称及び主たる事務所の所在地 ② 当該事業の経営者が提供する指定障害児相談支援の内容 ③ 当該指定障害児相談支援の提供につき利用申込者が支払うべき額に関する事項 ④ 指定障害児相談支援の提供開始年月日 ⑤ 指定障害児相談支援に係る苦情を受け付けるための窓口 <p>を記載した書面を交付しているか。</p> <p>また、当該書面に記載すべき事項を電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法により提供する場合、利用申込者の承諾を得ているか。</p> <p>(1) 指定障害児相談支援事業者は、指定障害児相談支援の利用に係る契約をしたときは、その旨を区市町村に対し遅滞なく報告しているか。</p> <p>(2) 指定障害児相談支援事業者は、障害児支援利用計画を作成したときは、その写しを区市町村に対し遅滞なく提出しているか。</p>	<p>児福法第24条の31第2項</p> <p>厚労令29第5条第1項 障発0330第23通知 第二の2（1）</p> <p>厚労令29第5条第2項 社会福祉法第77条第1項 社会福祉法施行規則 第16条第3項 障発0330第23通知 第二の2（1）</p> <p>厚労令29第6条第1項 障発0330第23通知 第二の2（2）</p> <p>厚労令29第6条第2項、 障発0330第23通知 第二の2（2）</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
3 提供拒否の禁止	<p>指定障害児相談支援事業者は、正当な理由がなく指定障害児相談支援の提供を拒んでいないか。特に、障害の程度や所得の多寡を理由にサービスの提供を拒否していないか。</p> <p>なお、正当な理由がある場合とは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 当該事業所の現員からは利用申込みに応じきれない場合 ② 利用申込者に係る障害児の居住地が当該事業所の通常の事業の実施地域外である場合 ③ 当該事業所の運営規程において主たる対象とする障害の種類を定めている場合であって、これに該当しない者から利用申込みがあった場合 ④ その他利用申込者及び利用申込者に係る障害児に対し自ら適切な指定障害児相談支援を提供することが困難な場合 <p>等である。</p>	厚労令29第7条 障発0330第23通知 第二の2（3）	
4 サービス提供困難時の対応	<p>指定障害児相談支援事業者は、指定障害児相談支援事業所の通常の事業の実施地域等を勘案し、利用申込者及び利用申込者に係る障害児に対し自ら適切な指定障害児相談支援を提供することが困難であると認めた場合は、適当な他の指定障害児相談支援事業者の紹介その他の必要な措置を速やかに講じているか。</p>	厚労令29第8条 障発0330第23通知 第二の2（4）	
5 受給資格の確認	<p>指定障害児相談支援事業者は、指定障害児相談支援の提供を求められた場合は、その者の提示する通所受給者証（通所給付決定を受けていない場合は区市町村の計画案提出依頼書）によって、障害児相談支援対象保護者であること、継続サービス利用支援に係るモニタリング期間、通所給付決定の有無、通所給付決定の有効期間、支給量等を確認しているか。</p>	厚労令29第9条 障発0330第23通知 第二の2（5）	
6 通所給付決定の申請に係る援助	<p>指定障害児相談支援事業者は、通所給付決定に通常要すべき標準的な期間を考慮し、通所給付決定の有効期間の終了に伴う通所給付決定の申請について、必要な援助を行っているか。</p>	厚労令29第10条 障発0330第23通知 第二の2（6）	
7 身分を証する書類の携行	<p>指定障害児相談支援事業者は、当該指定障害児相談支援事業所の相談支援専門員に身分を証する書類（証書や名札等）を携行させ、初回訪問時及び障害児又はその家族から求められたときは、これを提示すべき旨を指導しているか。また、証書や名札等には、事業所の名称、当該従業者の氏名の記載があるか。</p>	厚労令29第11条 障発0330第23通知 第二の2（7）	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
8 障害児相談支援給付費の額等の受領	<p>(1) 指定障害児相談支援事業者は、法定代理受領を行わない指定障害児相談支援を提供した際は、障害児相談支援対象保護者から当該指定障害児相談支援につき児福法第24条の26第2項に規定する厚生労働大臣が定める基準により算定した費用の額（その額が現に当該指定障害児相談支援に要した費用の額を超えるときは、当該現に指定障害児相談支援に要した費用の額）の支払を受けているか。</p> <p>(2) 指定障害児相談支援事業者は、(1)の支払を受ける額のほか、障害児相談支援対象保護者の選定により通常の事業の実施地域以外の地域の居宅を訪問して指定障害児相談支援を提供する場合は、それに要した交通費の額の支払を障害児相談支援対象保護者から受けているか。</p> <p>(3) 指定障害児相談支援事業者は、(1)及び(2)の費用の額の支払を受けた場合は、当該費用に係る領収証を当該費用の額を支払った障害児相談支援対象保護者に対し交付しているか。</p> <p>(4) 指定障害児相談支援事業者は、(2)の交通費については、あらかじめ、障害児相談支援対象保護者に対し、その額について説明を行い、障害児相談支援対象保護者の同意を得ているか。</p>	<p>厚労令29第12条第1項 障発0330第23通知 第二の2(8)①</p> <p>厚労令29第12条第2項 障発0330第23通知 第二の2(8)②</p> <p>厚労令29第12条第3項 障発0330第23通知 第二の2(8)③</p> <p>厚労令29第12条第4項 障発0330第23通知 第二の2(8)④</p>	
9 利用者負担額に係る管理	<p>指定障害児相談支援事業者は、指定障害児相談支援を提供している障害児相談支援対象保護者に係る障害児が当該指定障害児相談支援と同一の月に受けた指定通所支援につき児福法第21条の5の3第2項第2号に掲げる額の合計額（以下「利用者負担額合計額」という。）を算定しているか。</p> <p>この場合において、当該指定障害児相談支援事業者は、利用者負担額合計額を区市町村に報告するとともに、当該障害児相談支援対象保護者及び当該障害児相談支援対象保護者に係る障害児に対し指定通所支援を提供した指定障害児通所支援事業者に通知しているか。</p>	<p>厚労令29第13条 障発0330第23通知 第二の2(9)</p>	
10 障害児相談支援給付費の額に係る通知等	<p>(1) 指定障害児相談支援事業者は、法定代理受領により区市町村から指定障害児相談支援に係る障害児相談支援給付費の支給を受けた場合は、障害児相談支援対象保護者に対し、当該障害児相談支援給付費の額を通知しているか。</p> <p>(2) 指定障害児相談支援事業者は、8(1)の法定代理受領を行わない指定障害児相談支援に係る費用の額の支払を受けた場合は、その提供した指定障害児相談支援の内容、費用の額その他必要と認められる事項を記載したサービス提供証明書障害児相談支援対象保護者に対して交付しているか。</p>	<p>厚労令29第14条第1項 障発0330第23通知 第二の2(10)①</p> <p>厚労令29第14条第2項 障発0330第23通知 第二の2(10)②</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
11 指定障害児相談支援の具体的取扱方針	<p>(1) 指定障害児相談支援の方針は、第1に規定する基本方針に基づき、次に掲げるところによるものとなっているか。</p> <p>① 指定特定障害児支援事業所の管理者は、相談支援専門員に障害児支援利用計画の作成に関する業務を担当させているか。</p> <p>② 指定障害児相談支援の提供に当たっては、障害児等の立場に立って懇切丁寧に行うことを旨とし、障害児又はその家族に対し、サービスの提供方法等について理解しやすいように説明を行うとともに、必要に応じ、同じ障害を有する障害児の家族による支援等適切な手法を通じて行っているか。</p> <p>(2) 指定障害児相談支援における指定障害児支援利用援助の方針は、第1に規定する基本方針(1)に規定する方針に基づき、次に掲げるところによるものとなっているか。</p> <p>① 相談支援専門員は、障害児支援利用計画の作成に当たっては、障害児等の希望等を踏まえ作成するよう努めているか。</p> <p>② 相談支援専門員は、障害児支援利用計画の作成に当たっては、障害児の自立した日常生活の支援を効果的に行うため、障害児の心身又は家族の状況等に応じ、継続的かつ計画的に適切な福祉サービス等の利用が行われるようにしているか。</p> <p>③ 相談支援専門員は、障害児支援利用計画の作成に当たっては、障害児の日常生活全般を支援する観点から、指定通所支援に加えて、指定通所支援以外の福祉サービス等、当該地域の住民による自発的な活動によるサービス等の利用も含めて障害児支援利用計画上に位置付けるよう努めているか。</p>	<p>厚労令29 第15条第1項第1号 障発0330第23通知 第二の2 (11) ①</p> <p>厚労令29 第15条第1項第2号 障発0330第23通知 第二の2 (11) ②</p> <p>厚労令29 第15条第2項第1号 障発0330第23通知 第二の2 (11) ③</p> <p>厚労令29 第15条第2項第2号 障発0330第23通知 第二の2 (11) ④</p> <p>厚労令29 第15条第2項第3号 障発0330第23通知 第二の2 (11) ⑤</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
	<p>④ 相談支援専門員は、障害児支援利用計画の作成の開始に当たっては、障害児等によるサービスの選択に資するよう、当該地域における指定障害児通所支援事業者等に関するサービスの内容、利用料等の情報を適正に障害児又はその家族に対して提供しているか。 特定の福祉サービス等の事業を行う者に不当に偏った情報を提供することや、障害児等の選択を求めることなく同一の事業主体の福祉サービスのみによる障害児支援利用計画案を最初から提示することはないか。</p> <p>⑤ 相談支援専門員は、障害児支援利用計画の作成に当たっては、適切な方法により、障害児について、その心身の状況、その置かれている環境及び日常生活全般の状況等の評価を通じて障害児の希望する生活や障害児が自立した日常生活を営むことができるよう支援する上で解決すべき課題等の把握（以下「アセスメント」という。）を行っているか。</p> <p>⑥ 相談支援専門員は、アセスメントに当たっては、障害児の居宅を訪問し、障害児及びその家族に面接しているか。この場合において、相談支援専門員は、面接の趣旨を障害児及びその家族に対して十分に説明し、理解を得ているか。</p> <p>⑦ 相談支援専門員は、障害児についてのアセスメントに基づき、当該地域における指定通所支援が提供される体制を勘案して、当該アセスメントにより把握された解決すべき課題等に対応するための最も適切な福祉サービス等の組合せについて検討し、障害児及びその家族の生活に対する意向、総合的な援助の方針、生活全般の解決すべき課題、提供される福祉サービス等の目標及びその達成時期、福祉サービス等の種類、内容、量、福祉サービス等を提供する上での留意事項、区市町村に対するモニタリング期間に係る提案等を記載した障害児支援利用計画案を作成しているか。</p> <p>⑧ 相談支援専門員は、障害児支援利用計画案に位置付けた福祉サービス等について、法第21条の5の5第1項に規定する障害児通所給付費等の対象となるかどうかを区分した上で、当該障害児支援利用計画案の内容について、障害児及びその家族に対して説明し、文書により障害児等の同意を得ているか。</p> <p>⑨ 相談支援専門員は、障害児支援利用計画案を作成した際には、当該障害児支援利用計画案を障害児等に交付しているか。</p>	<p>厚労令29 第15条2項第4号 障発0330第23通知 第二の2(11)⑥</p> <p>厚労令29 第15条2項第5号 障発0330第23通知 第二の2(11)⑦</p> <p>厚労令29 第15条2項第6号 障発0330第23通知 第二の2(11)⑧</p> <p>厚労令29 第15条第2項第7号 障発0330第23通知 第二の2(11)⑨</p> <p>厚労令29 第15条第2項第8号 障発0330第23通知 第二の2(11)⑩</p> <p>厚労令29 第15条第2項第9号 障発0330第23通知 第二の2(11)⑪</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
	<p>⑩ 相談支援専門員は、通所給付決定を踏まえて障害児支援利用計画案の変更を行い、指定障害児通所支援事業者等その他の者との連絡調整等を行うとともに、サービス担当者会議の開催等により、当該障害児支援利用計画案の内容について説明を行うとともに、担当者から、専門的な見地からの意見を求めているか。 （担当者会議は実際に招集して行う会議のほか、テレビ電話装置等を活用して行うことも可）</p> <p>⑪ 相談支援専門員は、サービス担当者会議を踏まえた障害児支援利用計画案の内容について、障害児又はその家族に対して説明し、文書により障害児等の同意を得ているか。</p> <p>⑫ 相談支援専門員は、障害児支援利用計画を作成した際には、当該障害児支援利用計画を障害児等及び担当者に交付しているか。</p> <p>(3) 指定障害児相談支援における指定継続障害児支援利用援助の方針は、第1に規定する基本方針（1）及び（2）に規定する方針に基づき、次に掲げるところによるものとなっているか。</p> <p>① 相談支援専門員は、障害児支援利用計画の作成後、障害児支援利用計画の実施状況の把握（以下「モニタリング」という。）を行い、必要に応じて障害児支援利用計画の変更、福祉サービス等の事業を行う者等との連絡調整その他の便宜の提供を行うとともに、新たな通所給付決定が必要であると認められる場合には、障害児等に対し、通所給付決定に係る申請の勧奨を行っているか。</p> <p>② 相談支援専門員は、モニタリングに当たっては、障害児及びその家族、福祉サービス等の事業を行う者等との連絡を継続的に行うこととし、モニタリング期間ごとに障害児の居宅を訪問し、障害児等に面接するほか、その結果を記録しているか。</p> <p>③ 障害児支援利用計画に変更があった場合、（2）①から（2）⑦まで及び（2）⑩から（2）⑫までに準じて取り扱っているか。</p>	<p>厚労令29 第15条第2項第10号 障発0330第23通知 第二の2(11)⑫</p> <p>厚労令29 第15条2項第11号 障発0330第23通知 第二の2(11)⑬</p> <p>厚労令29 第15条第2項第12号 障発0330第23通知 第二の2(11)⑭</p> <p>厚労令29 第15条第3項第1号 障発0330第23通知 第二の2(11)⑮</p> <p>厚労令29 第15条第3項第2号 障発0330第23通知 第二の2(11)⑯</p> <p>厚労令29 第15条第3項第3号 障発0330第23通知 第二の2(11)⑰</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
12 障害児等に対する障害児支援利用計画等の書類の交付	<p>④ 相談支援専門員は、適切な福祉サービス等が総合的かつ効率的に提供された場合においても、障害児がその居宅において日常生活を営むことが困難となったと認める場合又は障害児等が指定障害児入所施設等への入所又は入院を希望する場合には、指定障害児入所施設等への紹介その他の便宜の提供を行っているか。</p> <p>⑤ 相談支援専門員は、指定障害児入所施設等から退所又は退院しようとする障害児又はその家族から依頼があった場合には、居宅における生活へ円滑に移行できるよう、あらかじめ、必要な情報の提供及び助言を行う等の援助を行っているか。</p> <p>指定障害児相談支援事業者は、障害児等が他の指定障害児相談支援事業者の利用を希望する場合その他障害児等から申出があった場合には、当該障害児等に対し、直近の障害児支援利用計画及びその実施状況に関する書類を交付しているか。</p>	<p>厚労令29 第15条第3項第4号 障発0330第23通知 第二の2(11)⑱</p> <p>厚労令29 第15条第3項第5号 障発0330第23通知 第二の2(11)⑲</p> <p>厚労令29第16条 障発0330第23通知 第二の2(12)</p>	
13 障害児相談支援対象保護者に関する区市町村への通知	<p>指定障害児相談支援事業者は、指定障害児相談支援を受けている障害児相談支援対象保護者が偽りその他不正な行為によって障害児相談支援給付費の支給を受け、又は受けようとしたときは、遅滞なく、意見を付してその旨を区市町村に通知しているか。</p>	<p>厚労令29第17条 障発0330第23通知 第二の2(13)</p>	
14 管理者の責務	<p>(1) 指定障害児相談支援事業所の管理者は、当該指定障害児相談支援事業所の相談支援専門員その他の従業者の管理、指定障害児相談支援の利用の申込みに係る調整、業務の実施状況の把握その他の管理を一元的に行っているか。</p> <p>(2) 指定障害児相談支援事業所の管理者は、当該指定障害児相談支援事業所の相談支援専門員その他の従業者に、第1から第3の規定を遵守させるため必要な指揮命令を行っているか。</p>	<p>厚労令29第18条第1項 障発0330第23通知 第二の2(14)</p> <p>厚労令29第18条第2項 障発0330第23通知 第二の2(14)</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
15 運営規程	<p>指定障害児相談支援事業者は、指定障害児相談支援事業所ごとに、次に掲げる事業の運営についての重要事項に関する運営規程を定めているか。</p> <p>① 事業の目的及び運営の方針 ② 従業者の職種、員数及び職務の内容 ③ 営業日及び営業時間 ④ 指定障害児相談支援の提供方法及び内容並びに障害児相談支援対象保護者から受領する費用及びその額 ⑤ 通常の事業の実施地域 ⑥ 事業の主たる対象とする障害の種類を定めた場合には当該障害の種類 ⑦ 虐待の防止のための措置に関する事項 （具体的な事項例） ア 虐待の防止に関する担当者の選定 イ 成年後見制度の利用支援 ウ 苦情解決体制の整備 エ 従業者に対する虐待の防止を啓発・普及するための研修の実施（研修方法や研修計画など） オ <u>虐待の防止のための対策を検討する委員会（虐待防止委員会）の設置等に関すること</u> ⑧ その他運営に関する重要事項</p>	<p>厚労令29第19条 障発0330第23通知 第二の2(15) 「障害者虐待の防止、 障害者の養護者に対す る支援等に関する法 律」（平成23年法律第 79号）</p>	
16 勤務体制の確保等	<p>(1) 指定障害児相談支援事業者は、障害児等に対し、適切な指定障害児相談支援を提供できるよう指定障害児相談支援事業所ごとに、相談支援専門員その他の従業者の勤務の体制を定めているか。 また、原則として月ごとの勤務表を作成し、従業者については、日々の勤務時間、職務の内容、常勤・非常勤の別、管理者との兼務関係等を明確にしているか。</p> <p>(2) 指定障害児相談支援事業者は、指定障害児相談支援事業所ごとに、当該指定障害児相談支援事業所の相談支援専門員に指定障害児相談支援の業務を担当させているか。（ただし、相談支援専門員の補助の業務については、この限りでない。）</p> <p>(3) 指定障害児相談支援事業者は、相談支援専門員の資質の向上のために、研修機関が実施する研修や当該指定障害児相談支援事業所内の研修への参加の機会を計画的に確保しているか。</p>	<p>厚労令29第20条第1項 障発0330第23通知 第二の2(16)①</p>	
		<p>厚労令29第20条第2項 障発0330第23通知 第二の2(16)②</p>	
		<p>厚労令29第20条第3項 障発0330第23通知 第二の2(16)③</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
17 業務継続計画の策定等 （令和6年3月31日までは努力義務）	<p>(4) 指定障害児相談支援事業者は、適切な指定障害児相談支援の提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって、業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じているか。</p> <p>(1) 指定障害児相談支援事業者は、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対する指定障害児相談支援の提供を継続的に実施するため、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るため次に掲げる項目を記載した計画（業務継続計画）を策定しているか。</p> <p>(2) 指定障害児相談支援事業者は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的実施しているか。</p> <p>(3) 指定障害児相談支援事業者は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行っているか。</p>	<p>厚労令29第20条第4項 障発0330第23通知 第二の2(16)④</p> <p>厚労令29第20条の2第1項 障発0330第23通知 第二の2(17)</p> <p>厚労令29第20条の2第2項 障発0330第23通知 第二の2(17)</p> <p>厚労令29第20条の2 障発0330第23通知 第二の2(17)</p>	
18 設備及び備品等	<p>指定障害児相談支援事業者は、事業を行うために必要な広さの区画を有するとともに、指定障害児相談支援の提供に必要な設備及び備品等を備えているか（貸与を受けているものでも可）。</p> <p>① 専用の事務室又は明確に特定されている区画があるか。</p> <p>② 申込みの受付、相談、サービス担当者会議等に対応するのに適切なスペースを確保しているか。</p> <p>③ 必要な設備及び備品等を確保しているか。（ただし、同一敷地内にある他の事業所、施設等の運営上支障がない場合は、他の事業所、施設等の設備及び備品等を使用することは差し支えない。）</p>	<p>厚労令29第21条 障発0330第23通知 第二の2(18)</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
19 衛生管理等	<p>(1) 指定特定相談支援事業者は、従業者の清潔の保持及び健康状態について、必要な管理を行っているか。</p> <p>(2) 指定特定相談支援事業者は、指定特定相談支援事業所の設備及び備品等について、衛生的な管理に努めているか。</p> <p>(3) 指定障害児相談支援事業者は、当該指定障害児相談支援事業所において感染症が発生し、又はまん延しないように、次に掲げる措置を講じているか。 (令和6年3月31日までは努力義務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 感染症の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会を定期的（概ね6か月に1回以上）に開催し、その結果を従業者に周知しているか（委員会はテレビ電話装置等を活用して行うことも可）。 ② 感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備しているか。 ③ 従業者に対し、感染症の予防及びまん延の防止のための研修及び訓練を定期的（年1回以上）に実施しているか。 	<p>厚労令29第22条第1項 障発0330第23通知 第二の2(19)①</p> <p>厚労令29第22条第2項 障発0330第23通知 第二の2(19)①</p> <p>厚労令29第22条第3項 障発0330第23通知 第二の2(19)②</p>	
20 掲示等	<p>(1) 指定障害児相談支援事業者は、指定障害児相談支援事業所の見やすい場所に、重要事項を掲示しているか。（重要事項を記載した書面をいつでも利用申込者、利用者又はその家族等が自由に閲覧可能な形で備え付けることでも可）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 運営規程の概要 ② 障害児相談支援の実施状況 ③ 相談支援専門員の有する資格、経験年数及び勤務の体制 ④ その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項 <p>(2) 指定障害児相談支援事業者は、(1)に規定する重要事項の公表に努めているか。（公表の方法等については、ホームページによる掲載等、適宜工夫すること。）</p> <p>(3) 指定障害児相談支援事業者の指定を受けた者は、その旨を当該指定に係る事業所又は施設の入口その他公衆の見やすい場所に掲示しているか。</p>	<p>厚労令29第23条第1項、第2項 障発0330第23通知 第二の2(20)①②</p> <p>厚労令29第23条第3項 障発0330第23通知 第二の2(20)③</p> <p>昭島市規則第2条第3項</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
21 秘密保持等	<p>(1) 指定障害児相談支援事業所の従業者及び管理者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た障害児又はその家族の秘密を漏らしていないか。</p> <p>(2) 指定障害児相談支援事業者は、従業者及び管理者であった者が、正当な理由がなく、その業務上知り得た障害児又はその家族の秘密を漏らすことがないように、必要な措置を講じているか。</p> <p>(3) 指定障害児相談支援事業者は、サービス担当者会議等において、障害児又はその家族の個人情報を用いる場合は、あらかじめ文書により当該障害児又はその家族の同意を得ているか。</p>	<p>厚労令29第24条第1項 障発0330第23通知 第二の2(21)①</p> <p>厚労令29第24条第2項 障発0330第23通知 第二の2(21)②</p> <p>厚労令29第24条第3項 障発0330第23通知 第二の2(21)③</p>	
22 広告	<p>指定障害児相談支援事業者は、当該指定障害児相談支援事業者について広告をする場合においては、その内容を虚偽のもの又は誇大なものとしていないか。</p>	厚労令29第25条	
23 指定障害児通所支援事業者等からの利益收受等の禁止	<p>(1) 指定障害児相談支援事業者及び指定障害児相談支援事業所の管理者は、障害児支援利用計画の作成又は変更に関し、当該指定障害児相談支援事業所の相談支援専門員に対して特定の福祉サービス等の事業を行う者等によるサービスを位置付けるべき旨の指示等を行っていないか。</p> <p>(2) 指定障害児相談支援事業所の相談支援専門員は、障害児支援利用計画の作成又は変更に関し、障害児等に対して特定の福祉サービス等の事業を行う者等によるサービスを利用すべき旨の指示等を行っていないか。</p> <p>(3) 指定障害児相談支援事業者及びその従業者は、障害児支援利用計画の作成又は変更に関し、障害児に対して特定の福祉サービス等の事業を行う者等によるサービスを利用させることの対償として、当該福祉サービス等の事業を行う者等から金品その他の財産上の利益を收受していないか。</p>	<p>厚労令29第26条第1項 障発0330第23通知 第二の2(22)①</p> <p>厚労令29第26条第2項 障発0330第23通知 第二の2(22)②</p> <p>厚労令29第26条第3項 障発0330第23通知 第二の2(22)③</p>	
24 苦情解決	<p>(1) 指定障害児相談支援事業者は、その提供した指定障害児相談支援又は障害児支援利用計画に位置付けた福祉サービス等に関する障害児又はその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置する等の必要な措置の講じているか。 (相談窓口の連絡先、苦情処理体制及び手順等の重要事項を文書等に記載して障害児又はその家族に説明するとともに、事業所に掲示することが望ましい)</p>	厚労令29第27条第1項 障発0330第23通知 第二の2(23)①	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
	<p>(2) 指定障害児相談支援事業者は、(1)の苦情を受け付けた場合には、当該苦情の内容等を記録しているか。</p> <p>(3) 指定障害児相談支援事業者は、その提供した指定障害児相談支援に関し、児福法第24条の34第1項の規定により区市町村長が行う報告若しくは帳簿書類その他の物件の提出若しくは提示の命令又は当該職員からの質問若しくは指定障害児相談支援事業所の設備若しくは帳簿書類その他の物件の検査に応じ、及び障害児又はその家族からの苦情に関して区市町村長が行う調査に協力するとともに、区市町村長から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行っているか。</p> <p>(4) 指定障害児相談支援事業者は、その提供した指定障害児相談支援に関し、児福法第57条の3の2第1項の規定により区市町村長が行う報告若しくは文書その他の物件の提出若しくは提示の命令又は当該職員からの質問若しくは指定障害児相談支援事業所の設備若しくは帳簿書類その他の物件の検査に応じ、及び障害児又はその家族からの苦情に関して区市町村長が行う調査に協力するとともに、区市町村長から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行っているか。</p> <p>(5) 指定障害児相談支援事業者は、その提供した指定障害児相談支援に関し、児福法第57条の3の3第4項の規定により都道府県知事が行う報告若しくは指定障害児相談支援の提供の記録、帳簿書類その他の物件の提出若しくは提示の命令又は当該職員からの質問に応じ、及び障害児又はその家族からの苦情に関して都道府県知事が行う調査に協力するとともに、都道府県知事から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行っているか。</p> <p>(6) 指定障害児相談支援事業者は、都道府県知事、区市町村又は区市町村長から求めがあった場合には、(3)から(5)までの改善の内容を都道府県知事又は区市町村長に報告しているか。</p> <p>(7) 指定障害児相談支援事業者は、社会福祉法第83条に規定する運営適正化委員会が同法第85条の規定により行う調査又はあっせんのできる限り協力しているか。</p>	<p>厚労令29第27条第2項 障発0330第23通知 第二の2(23)②</p> <p>厚労令29第27条第3項 障発0330第23通知 第二の2(23)③</p> <p>厚労令29第27条第4項 障発0330第23通知 第二の2(23)③</p> <p>厚労令29第27条第5項 障発0330第23通知 第二の2(23)③</p> <p>厚労令29第27条第6項 障発0330第23通知 第二の2(23)③</p> <p>厚労令29第27条第7項 社会福祉法第83条、第85条 障発0330第23通知 第二の2(23)④</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
25 事故発生時の対応	<p>(1) 指定障害児相談支援事業者は、障害児等に対する指定障害児相談支援の提供により事故が発生した場合は、都道府県、区市町村、当該障害児の家族等に連絡を行うとともに、必要な措置を講じているか。</p> <p>特に、次に掲げる事故については、速やかに区市町村に報告すること（指定障害児相談支援事業者側の責任や過失の有無は問わない）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 死亡事故（誤嚥によるもの等） ② 入院を要した事故（持病による入院等は除く） ③ 上記②以外の医療機関での治療を要する負傷や疾病を伴う事故 ④ 薬の誤与薬（その後の経過に関わらず、事案が発生した時点で要報告） ⑤ 無断外出（警察・消防等の他の機関が関わったもの） ⑥ 感染症の発生 ⑦ 事件性のあるもの（職員による暴力事件等） ⑧ 保護者や関係者とのトラブル発生が予想されるもの ⑨ 施設運営上の事故の発生（不正会計処理、送迎中の交通事故、個人情報の流出等） ⑩ その他特に報告の必要があると施設が判断したもの <p>(2) 指定障害児相談支援事業者は、(1)の事故の状況及び事故に際して採った処置について、記録しているか。</p> <p>(3) 指定障害児相談支援事業者は、障害児等に対する指定障害児相談支援の提供により賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を速やかに行っているか。</p>	<p>厚労令29第28条第1項 障発0330第23通知 第二の2(24)①③ 令和3年5月12日付3 福保障施第577号「施設・事業所における事故等防止対策の徹底について」</p>	
26 虐待の防止 (令和4年3月31日までは努力義務)	<p>指定障害児相談支援事業者は、虐待の発生又はその再発を防止するため、次の各号に掲げる措置を講じているか。</p> <p>(1) 虐待の防止のための対策を検討する委員会を定期的開催するとともに、その結果について従業者に周知徹底しているか。（委員会はテレビ電話装置等を活用して行うことも可）</p> <p>(2) 従業者に対し、虐待の防止のための研修を定期的（年1回以上）に実施しているか。</p> <p>(3) (1)(2)の措置を適切に実施するための担当者（相談支援専門員）を置いているか。</p>	<p>厚労令29第28条の2 障発0330第23通知 第二の2(25)</p>	
27 会計の区分	<p>指定障害児相談支援事業者は、指定障害児相談支援事業所ごとに経理を区分するとともに、指定障害児相談支援の事業の会計をその他の事業の会計と区分しているか。</p>	<p>厚労令29第29条 障発0330第23通知 第二の2(26)</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
28 記録の整備	<p>(1) 指定障害児相談支援事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備しているか。</p> <p>(2) 指定障害児相談支援事業者は、障害児等に対する指定障害児相談支援の提供に関する次に掲げる記録を整備し、当該指定障害児相談支援を提供した日から少なくとも5年以上保存しているか。</p> <p>① 第3の11(3)①に規定する福祉サービス等の事業を行う者等との連絡調整に関する記録</p> <p>② 個々の障害児ごとに次に掲げる事項を記載した相談支援台帳</p> <p>ア 障害児支援利用計画(案)及び障害児支援利用計画</p> <p>イ アセスメントの記録</p> <p>ウ サービス担当者会議等の記録</p> <p>エ モニタリングの結果の記録</p> <p>③ 第3の13に規定する区市町村への通知に係る記録</p> <p>④ 第3の24(2)に規定する苦情の内容等の記録</p> <p>⑤ 第3の25(2)に規定する事故の状況及び事故に際して採った処置についての記録</p>	<p>厚労令29第30条第1項</p> <p>厚労令29第30条第2項 障発0330第23通知 第二の2(27)</p>	
29 電磁的記録等 (令和3年7月1日 から適用)	<p>指定障害児相談支援事業者及びその従業者は、交付、説明、同意その他これらに類するものうち、書面でおこなうことが規定又は想定されているものについて、書面に代えて、電磁的方法による場合に、当該交付等の相手方の承諾を得ているか。</p> <p>また、当該交付等の相手方が利用者である場合には当該利用者の障害の特性に応じた適切な配慮をしているか。</p>	<p>厚労令29第31条第2項 障発0330第23通知第三</p>	
第4 届出等 1 変更の届出	<p>(1) 指定障害児相談支援事業者は、児福法施行規則第25条の26の7第1項に掲げる事項（児福法施行規則第25条の26の6第1項第1号、第2号、第4号(当該指定に係る事業に関するものに限る。)、第5号から第7号までに掲げる事項）に変更があったときは、10日以内に、その旨を区市町村長に届け出ているか。</p> <p>※指定障害児相談支援事業者が変更の届出を要する事項</p> <p>① 事業所の名称及び所在地</p> <p>② 申請者の名称及び主たる事務所の所在地並びにその代表者の氏名、生年月日、住所及び職名</p> <p>③ 申請者の登記事項証明書又は条例等</p> <p>④ 事業所の平面図</p> <p>⑤ 事業所の管理者及び相談支援専門員の氏名、生年月日、住所及び経歴</p> <p>⑥ 運営規程</p>	<p>児福法 第24条の32第1項 児福法施行規則 第25条の26の7第1項 児福法施行規則 第25条の26の6第1項</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
2 業務管理体制の整備	<p>(2) 指定障害児相談支援事業者は、当該指定障害児相談支援の事業を廃止し、又は休止しようとするときは、その廃止又は休止の日の1月前までに区市町村長に届け出ているか。</p> <p>(1) 指定障害児相談支援事業者は、障害児の人格を尊重するとともに、児福法又は児福法に基づく命令を遵守し、障害児及びその保護者のため忠実にその職務を遂行するために、業務管理体制を整備しているか。</p> <p>① 指定を受けている事業所の数が1以上20未満の指定障害児相談支援事業者 ア 法令を遵守するための体制の確保に係る責任者（以下「法令遵守責任者」という。）を選任しているか。 ② 指定を受けている事業所の数が20以上100未満の指定障害児相談支援事業者 ア 法令遵守責任者を選任しているか。 イ 業務が法令に適合することを確保するための規程を整備しているか。 ③ 指定を受けている事業所の数が100以上の指定障害児相談支援事業者 ア 法令遵守責任者の選任をしているか。 イ 業務が法令に適合することを確保するための規程を整備しているか。 ウ 業務執行の状況の監査を定期的に行っているか。</p> <p>(2) 指定障害児相談支援事業者は厚生労働大臣等に対し、遅滞なく業務管理体制の整備に関する事項を届け出ているか。また、届出書には以下の事項が記載されているか。</p> <p>① 事業者の名称、主たる事務所の所在地並びにその代表者の氏名、生年月日、住所及び職名 ② 法令遵守責任者の氏名及び生年月日 ③ 業務が法令に適合することを確保するための規程の概要（指定を受けている事業所の数が20以上の指定障害児相談支援事業者に限る。） ④ 業務執行の状況の監査の方法の概要（指定を受けている事業所の数が100以上の指定障害児相談支援事業者に限る。）</p> <p>(3) 届け出た事項に変更があったときは、遅滞なく当該変更に係る事項について届け出ているか。</p>	<p>児福法 第24条の32第2項 児福法施行規則 第25条の26の7第3項</p> <p>児福法 第24条の30第3項 児福法 第24条の38第1項 児福法施行規則 第25条の26の8</p> <p>児福法 第24条の38第2項 児福法施行規則 第25条の26の9第1項</p> <p>児福法 第24条の38第3項 児福法施行規則 第25の26の9第2項</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
<p>第5 障害児相談支援給付費の算定及び取扱い</p> <p>1 基本事項</p> <p>2 障害児相談支援費</p> <p>(1) 障害児支援利用援助費</p>	<p>(1) 指定障害児相談支援に要する費用の額は、平24厚労告126の別表「障害児相談支援給付費単位数表」により算定する単位数に平成24年厚生労働省告示第128号「厚生労働大臣が定める一単位の単価」を乗じて算定しているか。</p> <p>(2) (1)の規定により、指定障害児相談支援に要する費用の額を算定した場合において、その額に1円未満の端数があるときは、その端数金額は切り捨てて算定しているか。</p> <p>障害児支援利用援助費は、指定障害児相談支援事業者が、障害児相談支援対象保護者に対して指定障害児支援利用援助を行った場合に、次の区分に掲げる方法により、1月につき所定単位数を算定しているか。</p> <p>機能強化型障害児支援利用援助費（Ⅰ）から機能強化型障害児支援利用援助費（Ⅳ）までについては、下記（イ）から（ニ）の基準に適合しているものとして市町村長に届け出た指定障害児相談支援事業所における障害児相談支援対象保護者の数を当該指定障害児相談支援事業所の相談支援専門員の員数（前6月の平均値とし、新規に指定を受けた場合は、推定数とし、以下「相談支援専門員の平均員数」という。）で除して得た数（以下、「取扱件数」という）の40未満の部分に相談支援専門員の平均員数を乗じて得た数について算定しているか。ただし、機能強化型障害児支援利用援助費（Ⅰ）から機能強化型障害児支援利用援助費（Ⅳ）までのいずれかの機能強化型障害児支援利用援助費を算定している場合においては、機能強化型障害児支援利用援助費（Ⅰ）から機能強化型障害児支援利用援助費（Ⅳ）までのその他の機能強化型障害児支援利用援助費は算定しない。</p>	<p>児福法 第24条の26第2項 平24厚労告第126第1号 平24厚労告第128号</p> <p>平24厚労告126第2号</p> <p>平24厚労告126 別表1の注1 障発0330第16通知 第四の1（1）（2） （3）</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
	<p>(1) 機能強化型障害児支援利用援助費（I）</p> <p>① 他の指定障害児相談支援事業所と一体的に管理運営を行う指定障害児相談支援事業所は、次に掲げる基準のいずれにも適合すること。</p> <p>ア 障害児に関する情報又はサービス提供にあたっての留意事項に係る伝達等を目的とした会議を定期的を開催すること。</p> <p>イ 24時間体制を確保し、かつ、必要に応じて障害児等の相談に対応する体制を確保していること。</p> <p>ウ 新規に採用した全ての相談支援専門員に対し、相談支援従業者現任者研修を修了した相談支援専門員の同行による研修を実施していること。</p> <p>エ 基幹相談支援センター等から支援が困難な事例を紹介された場合においても、当該支援が困難な事例に係る者に指定障害児相談支援を提供していること。</p> <p>オ 基幹相談支援センター等が実施する事例検討会等に参加していること。</p> <p>カ 運営規程において、区市町村より地域生活支援拠点等として位置付けられていることを定めていること。</p> <p>キ 当該指定障害児相談支援事業所及びこれと一体的に管理運営を行う指定障害児相談支援事業所において、専ら指定障害児相談支援の提供に当たる常勤の相談支援専門員を合計4名以上配置し、かつ、そのうち1名以上が相談支援従事者現任研修を修了していること。</p> <p>ク 当該指定障害児相談支援事業所及びこれと一体的に管理運営を行う指定障害児相談支援事業所において、それぞれ専ら指定障害児相談支援の提供に当たる常勤の相談支援専門員を1名以上配置していること。</p> <p>ケ 当該指定障害児相談支援事業所及びこれと一体的に管理運営を行う指定障害児相談支援事業所において、それぞれ取扱件数が40未満であること。</p> <p>② ①以外の指定障害児相談支援事業者は、①アからオまでの基準に適合するとともに、専ら指定障害児相談支援の提供に当たる常勤の相談支援専門員を4名以上配置し、かつ、そのうち1名以上が相談支援従事者現任研修を修了し、取扱件数が40未満であること。</p>		

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
	<p>(2) 機能強化型障害児支援利用援助費（Ⅱ）</p> <p>① 他の指定障害児相談支援事業所と一体的に管理運営を行う指定障害児相談支援事業所は、次に掲げる基準のいずれにも適合すること。</p> <p>ア 機能強化型障害児相談支援利用援助費（Ⅰ）①のアからカ、及びク、ケの基準に適合していること。</p> <p>イ 当該指定障害児相談支援事業所及びこれと一体的に管理運営を行う指定障害児相談支援事業所において、専ら指定障害児相談支援の提供に当たる常勤の相談支援専門員を3名以上配置し、かつ、そのうち1名以上が相談支援従事者現任研修を修了していること。</p> <p>② ①以外の指定障害児相談支援事業者は、①アからオまでの基準に適合するとともに、専ら指定障害児相談支援の提供に当たる常勤の相談支援専門員を3名以上配置し、かつ、そのうち1名以上が相談支援従事者現任研修を修了し、取扱件数が40未満であること。</p> <p>(3) 機能強化型障害児支援利用援助費（Ⅲ）</p> <p>① 他の指定障害児相談支援事業所と一体的に管理運営を行う指定障害児相談支援事業所は、次に掲げる基準のいずれにも適合すること。</p> <p>ア 機能強化型障害児相談支援利用援助費（Ⅰ）①のア、ウからカ、及びケの基準に適合していること。</p> <p>イ 当該指定障害児相談支援事業所及びこれと一体的に管理運営を行う指定障害児相談支援事業所において、専ら指定障害児相談支援の提供に当たる常勤の相談支援専門員を1名以上配置し、かつ、そのうち1名以上が相談支援従事者現任研修を修了していること。</p> <p>② ①以外の指定障害児相談支援事業者は、①ア、ウからオまでの基準に適合するとともに、専ら指定障害児相談支援の提供に当たる常勤の相談支援専門員を2名以上配置し、かつ、そのうち1名以上が相談支援従事者現任研修を修了し、取扱件数が40未満であること。</p>		

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
(2) 継続障害児支援利用援助費	<p>(4) 機能強化型障害児支援利用援助費（Ⅳ） ア 機能強化型障害児相談支援利用援助費（Ⅰ）①のア、ウからオの基準に適合していること。 イ 専ら指定障害児相談支援の提供に当たる常勤の相談支援専門員を2名以上配置し、かつ、そのうち1名以上を常勤の相談支援専門員として配置するとともに、そのうち1名以上が相談支援従事者現任研修を修了し、取扱件数が40未満であること。</p> <p>(5) 障害児支援利用援助費（Ⅰ） 指定障害児相談支援事業所における取扱件数の40未満の部分に相談支援専門員の平均員数を乗じて得た数について算定しているか。</p> <p>(6) 障害児支援利用援助費（Ⅱ） 指定障害児相談支援事業所における取扱件数が40以上である場合において、当該取扱件数から39を減じた数に相談支援専門員の平均員数を乗じて得た数について算定しているか。</p> <p>継続障害児支援利用援助費は、指定障害児相談支援事業者が障害児相談支援対象保護者に対して指定継続障害児支援利用援助を行った場合に、次の区分に掲げる方法により、1月につき所定単位数を算定しているか。</p> <p>機能強化型継続障害児支援利用援助費（Ⅰ）から機能強化型継続障害児支援利用援助費（Ⅳ）までについては、下記（1）から（4）の基準に適合しているものとして市町村長に届け出た指定障害児相談支援事業所における取扱件数の40未満の部分に相談支援専門員の平均員数を乗じて得た数について算定しているか。ただし、機能強化型継続障害児支援利用援助費（Ⅰ）から機能強化型継続障害児支援利用援助費（Ⅳ）までのいずれかの機能強化型継続障害児支援利用援助費を算定している場合においては、機能強化型継続障害児支援利用援助費（Ⅰ）から機能強化型継続障害児支援利用援助費（Ⅳ）までのその他の機能強化型継続障害児支援利用援助費は算定しない。</p> <p>(1) 機能強化型継続障害児支援利用援助費（Ⅰ） 機能強化型障害児支援利用援助費（Ⅰ）①②に準じて算定しているか。</p> <p>(2) 機能強化型継続障害児支援利用援助費（Ⅱ） 機能強化型障害児支援利用援助費（Ⅱ）①②に準じて算定しているか。</p>	<p>平24厚労告126 別表1の注2 障発0330第16通知 第四の1（2）（3） （4）</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
(3) その他	<p>(3) 機能強化型継続障害児支援利用援助費（Ⅲ） 機能強化型障害児支援利用援助費（Ⅲ）①②に準じて算定しているか。</p> <p>(4) 機能強化型継続障害児支援利用援助費（Ⅳ） 機能強化型障害児支援利用援助費（Ⅳ）に準じて算定しているか。</p> <p>(5) 継続障害児支援利用援助費（Ⅰ） 取扱件数が40未満である場合又は40以上である場合において、40未満の部分に相談支援専門員の平均員数を乗じて得た数について算定しているか。</p> <p>(6) 継続障害児支援利用援助費（Ⅱ） 取扱件数が40以上である場合において、当該取扱件数から39を減じた数に相談支援専門員の平均員数を乗じて得た数について算定しているか。</p> <p>(1) 指定障害児相談支援事業者が、次のいずれかの基準を満たさないで指定障害児相談支援を行った場合に、所定単位数を算定していないか。</p> <p>① 第3の11（2）⑥の基準 アセスメントにあたっての障害児の居宅訪問、障害児及びその家族との面談を行う</p> <p>② 第3の11（2）⑧及び⑨の基準 障害児支援利用計画案の内容を障害児及びその家族に説明し文書による同意を得る及び交付する</p> <p>③ 第3の11（2）⑩及び⑪の基準 障害児支援利用計画案を基にサービス担当者会議を開催し、障害児及びその家族に内容を説明し文書による同意を得る</p> <p>④ 第3の11（2）⑫の基準 障害児支援利用計画を障害児等及び担当者に交付する</p> <p>⑤ 第3の11（3）②の基準 モニタリングに当たっては、障害児及びその家族、福祉サービス等の事業を行う者との連絡を継続的に行い、モニタリング期間ごとに障害児の居宅を訪問、面接しその結果を記録する</p> <p>⑥ 第3の11（3）③により準用する第3の11（2）①から（2）⑨まで及び（2）⑪から（2）⑫までの基準 障害児支援等利用契約の変更に当たって準用する基準を満たしている</p>	平24厚労告126 別表1の注3	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
3 利用者負担上限額管理加算	<p>(2) 指定障害児相談支援事業者が、同一の月において、同一の障害児相談支援対象保護者に対して指定継続障害児支援利用援助を行った後に、指定障害児支援利用援助を行った場合には、継続障害児支援利用援助費に係る所定単位数を算定していないか。</p> <p>(3) 平成24年厚生労働省告示第233号に規定する「厚生労働大臣が定める地域」（中山間地域や離島等）に居住している利用者に対して、指定障害児相談支援を行った場合（（1）及び（2）に定める場合を除く。）に特別地域加算として、1回につき所定単位数に加算しているか。</p> <p>指定障害児相談支援事業者が、第3の9に規定する利用者負担額合計額の管理を行った場合に、1月につき所定単位数を加算しているか。</p>	<p>平24厚労告126 別表1の注4 障発0330第16通知 第四の1（5）</p> <p>平24厚労告126 別表2の注 障発0330第16通知 第四の2</p> <p>平24厚労告126 別表2の注 障発0330第16通知 第四の3</p>	
4 初回加算	<p>(1) 指定障害児相談支援事業者が、新規に障害児支援利用計画を作成する障害児相談支援対象保護者に対して、指定障害児支援利用援助を行い、次のいずれかに適合する場合に、1月につき所定単位数を加算しているか。</p> <p>① 新規に障害児支援利用計画を作成する障害児相談支援対象保護者に対して、指定障害児支援利用援助を行った場合</p> <p>② 障害児支援利用計画を作成する月の前6月間において、障害児通所支援又は障害福祉サービスを利用していない障害児相談支援対象保護者に対して指定障害児支援利用援助を行った場合</p> <p>(2) 指定障害児相談支援に係る契約をした日から障害児支援利用計画案を障害児及びその家族に交付した日までの期間が3月を超える場合であって、当該指定障害児相談支援に係る契約をした日から3月が経過する日以後に月2回以上、当該障害児の居宅に訪問し、当該障害児及びその家族に面接を行った場合に、所定単位数を当該面接をした月の数（3を限度とする）を乗じて得た単位数を加算しているか。</p>	<p>平24厚労告126 別表3の注1 平27厚労告181第2号 障発0330第16通知 第四の4（1）（2）</p> <p>平24厚労告126 別表3の注2 障発0330第16通知 第四の4（3）</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
5 主任相談支援専門員配置加算	<p>指定障害児相談支援事業者が、相談支援従事者主任研修を修了した常勤、かつ、専従の主任相談支援専門員を1名以上配置し、適切な指導を行うことができる体制を整備し、次のいずれにも適合する場合に、1月につき所定単位数を加算しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 利用者に関する情報又はサービス提供に当たっての留意事項に係る伝達を目的とした会議の開催 ② 新規に採用した全ての相談支援専門員に対する主任相談支援専門員の同行による研修の実施 ③ 当該相談支援事業所の全ての相談支援専門員に対して、地域づくり、人材育成、困難事例への対応などサービスの総合的かつ適切な利用支援等の援助技術の向上等を目的として主任相談専門員が指導、助言の実施 ④ 基幹相談支援センター等が実施する事例検討会等への主任相談支援専門員の参加 	平24厚労告126 別表4の注 障発0330第16通知 第四の5	
6 入院時情報連携加算	<p>障害児通所支援を利用する障害児が病院又は診療所（以下「病院等」という。）に入院するに当たり、別に厚生労働大臣が定める基準に従い、当該病院等の職員に対して、当該障害児の心身の状況や生活環境等の当該障害児に係る必要な情報を提供し、記録した場合は、次に掲げる区分に応じ、当該障害児1人につき1月に1回を限度として所定単位数に加算しているか。ただし、次に掲げる区分のいずれかの加算を算定している場合においては、当該加算以外の次に掲げる加算は算定しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 入院時情報連携加算（Ⅰ） 病院等を訪問し、当該病院等の職員と面談して、当該障害児の心身の状況や生活環境等の必要な情報を提供していること。 ② 入院時情報連携加算（Ⅱ） 入院時情報連携加算（Ⅰ）以外の方法により、当該病院等の職員に対して当該障害児の心身の状況や生活環境等の必要な情報を提供していること。 	平24厚労告126 別表5の注 平27厚労告181第3号 障発0330第16通知 第四の6	
7 退院・退所加算	<p>児童福祉施設（乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設、障害児入所施設、児童心理治療施設及び児童自立支援施設に限る。）、障害者支援施設に入所していた障害児、病院等に入院していた障害児、刑事施設、少年院、更生保護施設に収容されていた障害児又は保護観察所に設置若しくは併設された宿泊施設、救護若しくは更生緊急保護として利用させる宿泊施設（更生保護施設を除く。）に宿泊していた障害児が退院、退所等に当たって、障害児通所支援を利用する場合において、当該施設の職員と面談を行い、当該障害児及びその家族に関する必要な情報の提供を受けた上で、障害児支援利用計画を作成し、障害児通所支援の利用に関する調整を行った場合には、入所、入院、収容又は宿泊の期間中につき3回を限度として所定単位数を加算しているか（4の初回加算を算定する場合を除く）。</p>	平24厚労告126 別表6の注 障発0330第16通知 第四の7	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
8 保育・教育等移行支援加算	<p>指定障害児相談支援事業者が、障害児が障害福祉サービス等を利用している期間において、次のいずれかに該当する場合に、1月につき、それぞれに定める単位数（それぞれ2回を限度）のうち、該当するものを合算した単位数を加算しているか。また、障害児が障害福祉サービス等の利用を終了した日から起算して6月以内において、次のいずれかに該当する場合に、1月につき、それぞれに定める単位数を合算した単位数を加算しているか。</p> <p>① 障害児が保育所、小学校その他の児童が集団生活を営む施設（以下「保育所等」という。）に通い、又は通常の事業所に新たに雇用され、障害者就業・生活支援センター若しくは当該通常の事業所の事業主等（以下「障害者就業・生活支援センター等」という。）による支援を受けるに当たり、当該保育所等又は障害者就業・生活支援センター等に対して、当該障害児の心身の状況等の必要な情報を提供し、当該保育所等又は障害者就業・生活支援センター等における支援内容の検討に協力する場合。</p> <p>② 障害児が保育所等に通い、又は通常の事業所に新たに雇用されるに当たり、月2回以上、当該障害児の居宅を訪問し、当該障害児及びその家族に面接する場合（障害児支援利用援助費及び継続障害児支援利用援助費を算定する月を除く。）</p> <p>③ 障害児が保育所等に通い、又は通常の事業所に新たに雇用され、保育所等又は障害者就業・生活支援センター等における支援を受けるに当たり、当該障害児の心身の状況の確認及び支援内容の検討に係る保育所等又は障害者就業・生活支援センター等が開催する会議に参加する場合（障害児支援利用援助費又は継続障害児支援利用援助費を算定する月を除く。）</p>	平24厚労告126 別表7の注 障発0330第16通知 第四の8	
9 医療・保育・教育機関等連携加算	<p>第1の（3）に規定する福祉サービス等（障害児通所支援及び障害福祉サービスを除く。）を提供する機関の職員等と面談を行い、障害児及びその家族に関する必要な情報の提供を受けた上で、障害児支援利用計画を作成し、その内容を記録した場合に、当該障害児相談支援対象保護者に係る障害児1人につき1月に1回を限度として所定単位数を加算しているか。（4の初回加算を算定する場合及び7の退院・退所加算を算定する場合であって、退院、退所等をする施設の職員のみから情報の提供を受けている場合を除く。）。</p>	平24厚労告126 別表8の注 障発0330第16通知 第四の9	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
10 集中支援加算	<p>指定障害児相談支援事業所が、次のいずれかに該当する場合に、障害児1人につき1月に1回を限度としてそれぞれ所定単位数を加算しているか。（ただし、当該加算は、緊急的、臨時的な取扱いであり、頻回に算定が必要となる障害児については、モニタリング頻度を改めて検証する必要があることに留意すること。）</p> <p>① 障害福祉サービス等の利用に当たり、障害児相談支援対象保護者又は区市町村の求めに応じ、月に2回以上、当該障害児相談支援対象保護者に係る障害児の居宅を訪問し、当該障害児及びその家族に面接する場合（障害児支援利用援助費又は継続障害児支援利用援助費を算定する月を除く。）</p> <p>② サービス担当者会議を開催し、相談支援専門員が把握した障害児支援利用計画の実施状況について説明を行うとともに、担当者に対して、専門的な見地から意見を求め、障害児相談支援利用計画の変更その他必要な便宜の提供について検討を行う場合（障害児支援利用援助費又は、継続障害児支援利用援助費を算定する月を除く。）</p> <p>③ 福祉サービス等を提供する機関等（以下「関係機関」という。）の求めに応じ、当該関係機関が開催する会議に参加し、障害児の障害福祉サービス等の利用について関係機関相互の連絡調整を行った場合（障害児支援利用援助費、継続障害児支援利用援助費、入院時情報連携加算、退院・退所加算を算定する月を除く。）</p>	平24厚労告126 別表9の注 障発0330第16通知 第四の10	
11 サービス担当者会議実施加算	<p>指定継続障害児支援利用援助を行うに当たり、第3の11（2）⑩に規定するサービス担当者会議を開催し、相談支援専門員が把握した障害児支援利用計画の実施状況（障害児についての継続的な評価を含む。）について説明を行うとともに、担当者に対して、専門的な見地からの意見を求め、障害児支援利用計画の変更その他必要な便宜の提供について検討を行い、その内容を記録した場合に、当該障害児相談支援対象保護者に係る障害児1人につき1月に1回を限度として所定単位数を加算しているか。</p>	平24厚労告126 別表10の注 障発0330第16通知 第四の11	
12 サービス提供時モニタリング加算	<p>指定障害児相談支援事業所が、当該指定障害児相談支援事業所が障害児支援利用計画を作成した障害児相談支援対象保護者に係る障害児が利用する障害児通所支援の提供現場を訪問することにより、障害児通所支援の提供状況等を確認し、その内容を記録した場合に、当該障害児相談支援対象保護者に係る障害児1人につき1月に1回を限度として所定単位数を加算しているか。ただし、相談支援専門員1人当たりの障害児相談支援対象保護者の数が39を超える場合には、39を超える数については算定しない。</p> <p>（モニタリングにおける確認事項）</p> <p>① 障害児通所支援の事業所等におけるサービスの提供状況</p> <p>② サービス提供時の障害児の状況</p> <p>③ その他必要な事項</p>	平24厚労告126 別表11の注 障発0330第16通知 第四の12	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
13 行動障害支援体制加算	<p>別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして、区市町村長に届け出た指定障害児相談支援事業所は1月につき所定単位数を加算しているか。</p> <p>*別に厚生労働大臣が定める基準の内容は次のとおり。</p> <p>① 指定障害児相談支援事業所の相談支援専門員のうち強度行動障害支援者養成研修(実践研修)の課程を修了し、当該研修の事業を行った者から当該研修の課程を修了した旨の証明書の交付を受けた者を1名以上配置していること。</p> <p>② ①に規定する者を配置している旨を公表していること。</p>	<p>平24厚労告126 別表12の注 平27厚労告181第4号 障発0330第16通知 第四の13</p>	
14 要医療児者支援体制加算	<p>別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして、区市町村長に届け出た指定障害児相談支援事業所は1月につき所定単位数を加算しているか。</p> <p>*別に厚生労働大臣が定める基準の内容は次のとおり。</p> <p>① 指定障害児相談支援事業所の相談支援専門員のうち地域生活支援事業として行われる研修(人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児等の障害特性及びこれに応じた支援技法等に関する研修に限る。)又はこれに準ずるものとして都道府県知事が認める研修の課程を修了し、当該研修の事業を行った者から当該研修の課程を修了した旨の証明書の交付を受けた者を1名以上配置していること。</p> <p>② ①に規定する者を配置している旨を公表していること。</p>	<p>平24厚労告126 別表13の注 平27厚労告181第5号 障発0330第16通知 第四の14</p>	
15 精神障害者支援体制加算	<p>別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして、区市町村長に届け出た指定障害児相談支援事業所は1月につき所定単位数を加算しているか。</p> <p>*別に厚生労働大臣が定める基準の内容は次のとおり。</p> <p>① 指定障害児相談支援事業所の相談支援専門員のうち地域生活支援事業として行われる研修(精神障害者の障害特性及びこれに応じた支援技法等に関する研修に限る。)又はこれに準ずるものとして都道府県知事が認める研修の課程を修了し、当該研修を行った者から当該研修の課程を修了した旨の証明書の交付を受けた者を1名以上配置していること。</p> <p>② ①に規定する者を配置している旨を公表していること。</p>	<p>平24厚労告126 別表14の注 平27厚労告181第6号 障発0330第16通知 第四の15</p>	

項目	基本的な考え方（観点）	根拠法令	
16 ピアサポート体制加算	<p>別に厚生労働大臣が定める基準に適合しているものとして、区市町村長に届け出た指定障害児相談支援事業所において、指定障害児相談支援を行った場合に、1月につき所定単位数を加算しているか。</p> <p>*別に厚生労働大臣が定める基準の内容は次のとおり。</p> <p>① 地域生活支援事業として行われる研修（障害者ピアサポート研修における基礎研修及び専門研修に限る。）の課程を修了し、当該研修の事業を行った者から当該研修の課程を修了した旨の証明書の交付を受けた者であって、次のア及びイに掲げる者を指定障害児相談支援事業所の従事者としてそれぞれ常勤換算方法で0.5以上配置していること。</p> <p>ア 障害者又は障害者であったと区市町村長が認める者 イ 管理者、相談支援専門員その他指定障害児相談支援に従事する者</p> <p>② ①に掲げる者のいずれかにより、当該指定障害児相談支援事業所の従業者に対し、障害者に対する配慮等に関する研修が年1回以上行われていること。</p> <p>③ ①に掲げる者を配置している旨を公表していること。</p>	<p>平24厚労告126 別表15の注 平27厚労告181第7号 障発0330第16通知 第四の16</p>	
17 地域生活支援拠点等相談強化加算	<p>第3の15に規定する運営規程において、地域生活支援拠点等（障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の円滑な実施を確保するための基本的な指針（平成29年厚生労働省告示第116号）第2の3に規定する地域生活支援拠点をいう。）であるとして区市町村長に届け出た指定障害児相談支援事業所が、障害の特性に起因して生じた緊急の事態その他の緊急に支援が必要な事態が生じた障害児（以下「要支援児」という。）が指定短期入所を利用する場合において、指定短期入所事業者に対して当該要支援児に関する必要な情報の提供及び当該指定短期入所の利用に関する調整（現に当該要支援児が指定短期入所を利用していない場合にあつては、障害児支援利用計画の作成又は変更を含む。）を行った場合には、当該要支援児1人につき1月に4回を限度として所定単位数を加算しているか。</p>	<p>平24厚労告126 別表16の注 平27厚労告181第8号 障発0330第16通知 第四の17</p>	
18 地域体制強化共同支援加算	<p>第3の15に規定する運営規程において、地域生活支援拠点等であるとして定め、かつ区市町村長に届け出た指定障害児相談支援事業所の相談支援専門員が、障害児相談支援対象保護者の同意を得て、当該障害児相談支援対象保護者に係る障害児に対して、第1の（3）に規定する福祉サービス等を提供する事業者のうちいずれか3者以上と共同して、在宅での療養上必要な説明及び指導を行った上で協議会（支援法第89条の3第1項に規定する協議会をいう。）に対し、文書により当該説明及び指導の内容等を報告した場合に、当該障害児相談支援対象保護者に対して指定障害児利用支援を行っている指定障害児相談支援事業所において、当該障害児相談支援対象保護者に係る障害児1人につき1月に1回を限度として所定単位数を加算しているか。</p>	<p>平24厚労告126 別表17の注 平27厚労告181第8号 障発0330第16通知 第四の18</p>	